

伊予市

じんけん教育

2005
創刊号

～ 一人一人の人権が尊重される、明るい伊予市をめざして ～

編集・発行/愛媛県人権教育協議会伊予市支部・伊予市教育委員会 (〒799-3113 伊予市米湊768番地2 ☎089-982-5155 内線737)

主体的な遊びから、友達とのかかわりがさらに深くなっています。



どれにしようかな～?

このおちゃわんにする?

コップもあるよ。

中山幼稚園は、今年四月に新設された、全園児二十名の小規模園です。ゆつたりとした雰囲気の中で、全園児が、兄弟姉妹のように、時には仲良く、時にはけんかもしながら、友達どうしのつながりを深めています。開園して、まだ半年余りですが、いろいろな生活を経験しました。今回は、その様子の一部を写真で紹介いたします。

はじめまして、中山幼稚園です!

— 日々の園生活を通して —

園児たちは、毎日の園生活の当番活動を通して、動植物に親しんだり、友だちとの遊びやかかわりの中で、自分の思いを受け止めてもらったりしながら、相手にも思いがあることに気づき、社会性や思いやりの心を育てています。

自分たちの使用する場をみんなで掃除することにより、所属感や仲間意識を育てます。



ここ、まだよごれているよ。

きれいに
なってきたね。

異年齢での交流を通して、相手思いやる気持ちや憧れの気持ちを持つようになります。



やさそば、かき氷
おいしかったね。

竹とんぼをつくりました。
子どもたち喜んでくれたかな?!

何度もくり返し挑戦する中で、達成感・満足感を味わいます。



地面をおもいきり蹴るんだよ。

私もやってみよう、どうやってするの?

また、旧中山町内での幼稚園・保育所との交流保育や、おじいさん・おばあさんといっしょの夏祭りイベントを実施するなど、地域・家庭・園が、一体となって子育てに取り組んでいます。

人権同和教育への取組

日々の小さな取組を大切に

伊予市立翠小学校

翠小学校は、教育活動の重点項目のひとつ「豊かな心と社会性を育てる教育活動の推進」の中で、「自他の長所を認め、互いに高め合う仲間意識に支えられた人権・同和教育の推進」を第一に掲げて取り組んでいます。

一 呼び捨てをしません

相手の名前を正しく呼ぶことは、人間関係を円滑にするうえでとても重要です。何より相手を尊重する心が具体的に現れると考えています。本校では、子どもも教師も呼び捨てをせず、名前をきちんと呼ぶことを心がけています。

二 ミニなかよし集会

学期に二回行う集会です。各学年が、自分たちの身の回りにある問題を題材に、考えたことを発表しています。



重ねながら子どもたちの感性を磨いていきます。

三 人権・同和教育であるために

人権・同和教育の中心的課題は、同和教育の解決です。本校では、実践の内容のどこがどのようなに差別解消の力を育てることになるのかを検証しながら取り組んでいます。そのひとつとして、人権劇

集会の前に発表のねらいや特に気をつけて見て欲しい場面を知らせておきます。発表を見た後、感じたことやこれから自分はどうのように行動するかなどを話し合います。回を重ねながら子どもたちの感性を磨いていきます。

を作る際、次のような教師の基本的な考え方(人権・同和教育観)を互いに示し、検討しながら取り組んでいます。

子どもたちの日々の生活の中には、人間関係から生まれる実に様々な問題がある。一見些細な意地悪のように見えても、相手を軽んじていたり、自分が少しでも優位な位置でいようとしたりする気持ちが働いている。子供たちは、そのような意識を自分では自覚していない。それだけでなく、自分の行為を正当化する論理にしようとすることさえある。

子どもたちに、自分の言動の裏側に潜む意識や自分が立とうとしている人間関係における位置をはっきりさせていくことは、いわゆる自己の差別性を洗い出す作業になると考える。それを基本にしつつ、「差別をするのはなぜか」を一人一人が考えていく取組にしていきたい。同時に、無関心や他人事ととらえる傍観的な態度が問題であることも絡ませながら展開していきたい。

(二〇〇五年度 高学年人権劇基本的な考え方より)

愛媛県人権教育協議会伊予市支部設立総会

2005年6月6日(月) 伊予市市民会館

新伊予市が四月一日に誕生しました。同和問題をはじめ、あらゆる人権問題について、これまでの実績を基盤にし、一日も早い解決と「人権の世紀」にふさわしい社会を築くため、一人一人が人権問題に関心を深め、人権意識を高めて、互いの人権を尊重する社会づくりを目指して、愛媛県人権教育協議会伊予市支部の総会が開催されました。



旧市・町の時もそれぞれで同様の会はありましたが、合併後、最初の会ということで、これまでの定期総会とはその流れを多少変えて、開会行事そして、総会行事にはいりました。

まず、愛媛県人権教育協議会伊予市支部会則の原案説明と質疑応答がなされ、出席者の拍手による賛成でもって承認されました。つづいて、平成十七年度、事業計画及び予算案の審議、役員選出が行われ、承認されました。

上田支部長から、「これまでの人権教育は熱心に取り組んできました。しかし、全体的にみると、知識面に偏ったものが多かったような気がします。今後、日常生活にどう人権意識を生かしていくか、じっくり考えて推進していきたいと思えます。」と、あいさつがありました。

記念講演

「生命・愛・人権を共に考えましょう」

愛媛県生涯学習推進講師

江口 徹子 先生

総会につづいて講演がありました。江口先生の長年にわたる差別解消に向けた、幅広い実践や体験が具体的に語られ、深い感動を覚えまし



た。人間にとって人権は本当に尊く何よりも大事で重いものです。人権は、お互いが人格を大切にしようとして守られ、侵害されないものになるのだということを実感しました。

「なぜ、差別は無くならないのでしょうか。」というところで、ある地域の話として紹介くださった内容は、障害者差別・結婚差別にかかわることでした。ある青年が、障害のある娘さんと出会っておつきあいをするうちに、二人は愛を育みました。ぜひ結婚したいと青年が両親に話しました。父親は、反対しました。母親は、「あなたは間違っていない。あなたの考え方は正しいのよ。しかし、結婚したら幸せになれないからやめなさい。」と、言いました。

本人は、自分の意志を曲げることなく結婚し、幸福な家庭を築いておられます。

差別がなくならない実態が、この両親の言動に現れています。皆さんはどう思われますか。

江口先生は、「青年の生き方の頼もしさに同和教育の成果を感じます。」と、おっしゃいました。

参加者の中からは、「自分を見つめ直したい勉強になりました。」との声が聞かれました。

第五十二回 四国地区人権教育

研究大会に参加して(参加者の感想)

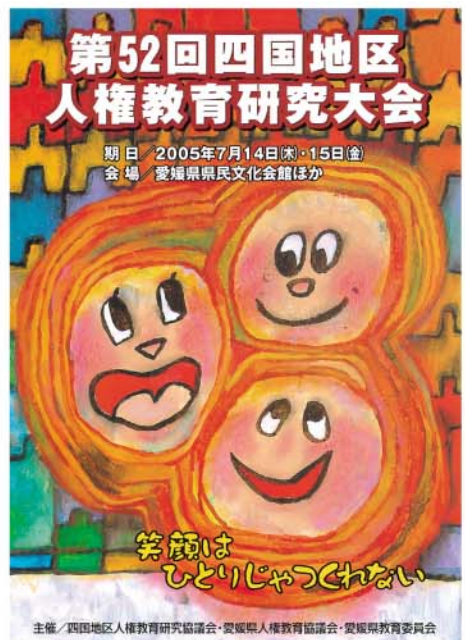
二〇〇五年七月十四日(木)～十五日(金) 松山市

「四国はひとつ」の合い言葉のもとに半世紀にわたって、人権問題の解決をめざして、みんなが努力をしてみました。残念なことになお差別は根強く存在しています。この状況を考えると、改めて、この問題の厳しき、根深さを感じました。

企画行事で、子どもたちに太鼓を教えながら差別解消の教育に取り組んでおられる、「雅」の方たちが解放を願って力強く打つ太鼓の響きに大変感動を覚えました。分科会では、四県の代表者の報告がありました。どこも高齢化・過疎化が進んでいます。

その中で、町をあげて、学校・自治会・老人会・女性団体等が一体となって故郷を愛し、人の痛みの分かる子育てに取り組んでいること等、具体的なお話は勉強になりました。特に、障害者があたりまえの生活があたりまえに送れるように地域住民との交流を度々行ったことで、偏見と差別をしっかりと見つめ直すことにつながったとの報告が印象に残りました。

都市化が進んでいる所では、日常生活における差別は少なくなってきたようですが、やはり、結婚の話になると根深い差別意識がまだまだ存在していると感じます。



せっかく学習会で学んできても、実行しなければ何にもなりません。まずは、家族でよく話し合っ、偏見や差別を無くするように努力しなければならぬと思います。

特に、今回の大会に出席してみても、これまでの学習への取組については反省させられる面が多々ありました。

大会資料の表紙に、「笑顔はひとりじゃつけない。」との、言葉がありました。本当にその通りだと思います。人を愛する気持ちを一人一人が大切に、和を広げていけるようになれば素晴らしい社会になると、強く感じた二日間でした。

全体会



**平成十七年 双海地域
ふれあい懇談会を開催**



双海地域における「ふれあい懇談会」は、去る八月二日、行政職員と、地域内の五校の教職員が二、三名の班編制で、各地域へ出向くという独自の方式によって、自治公民館単位（三十六館）で、一斉に開催されました。当日、都合で開催されなかった地域については、日を改めて開催されます。スタッフとして参加する行政職員や教職員は、事前に学習会をもち、各自の人権問題に対する意識の高揚に努めると共に、運営面に関する打合せをして当日の懇談会に備えました。例年、懇談会には、ワークショップ（参加体験型学習）を取り入れています。どの会場も和やかな雰囲気の中で、参加者から多様な意見が出され、意義ある懇談会になりました。

**第七期 オピニオンリーダー
養成講座に参加して**



「あなたも「人権」についていっしょに学習してみませんか!」をキャッチフレーズに、六月に養成講座が開講されました。同和問題解決、差別解消に向かつての「地域リーダー」の養成を目的にした本講座ですが、今年も経験豊かな六名の講師陣のもと、受講者五十一名は多彩な内容を学習しました。最終日には、修了証を受け取り感無量でした。あわせて、日常生活の中で差別解消に今回の学習内容を生かし、自分にできることを実践していく気持ちを大きくふくらませました。楽しく、充実した五日間でした。次に受講者の感想を写真とともに紹介します。



「相手の立場に立つことの大切さ」ということを今一度考えてみようと思いました。母親として、偏見を子どもに押しつけないよう広く勉強していきたいです。

よりよい人間関係を築くためには、自分の言いたいことを、相手の気持ちを受けとめながら積極的に伝えていくことが大切なんですね。



ワークショップ ちがいのちがい

私たちの身近なところで、次のような場面を見たとき、どう考えますか。
○・△・×を入れてみましょう。また、どうしたいと思いますか。

- あってよい
- △ どちらともいえない
- × あってはいけない

長なわ跳び遊びで、Aちゃんはいつも中に入って跳んでいるが、Bちゃんはうまく跳べないのでいつもなわ回しをさせられている。



あなたはどうしたいと思いますか？

友達のことを大切に考える子どもになって欲しいですね。「Bちゃんも跳ぼうよ。うまく跳べるようになるよ。」気づいて、誘って、仲間として協力しあえることが、人権を大事にした行動ですね。

あなたはどうしたいと思いますか？



A君は、「子どものくせに」と言って、おこられるばかりで、親に話をなかなか聞いてもらえない。B君は、自分の意見を親に聞いてもらえる。

「A君のうちと同じだったな。」と思う体験はありますか。大人が子どもの人権を大切にする。その時、子どもは他人の人権を大切にすることの重要性を勉強することになります。

『第7回人権を考える市民の集い』が開催されます。

多くの人のご参加をお待ちしています。

と き：平成17年11月3日(木) 9:00～12:00
 と ころ：伊予市市民会館大ホール(入場無料)

記念講演 講師
 ジャーナリスト **江川 紹子**さん

演 題 「混迷の現代社会を想う」

【講師プロフィール】

テレビ・報道の場で活躍するジャーナリスト。
 1958年、東京都に生まれる。82年、早稲田大学政経学部卒業。坂本弁護士一家の行方不明事件以来、オウム真理教を取材、糾弾し続け、テレビ・執筆などで一躍有名となる。冷静で確実な取材に裏打ちされた内容と飾らない人柄は、多くの人に好感を呼んでいる。

